

発行—2014年2月28日

<http://gdtk.lib.gunma-u.ac.jp>

編集—群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会 前橋市荒牧町4-2(群馬大学総合情報メディアセンター内) TEL.027-220-7167



群馬大学
Gunma University



CONTENTS

■ 研究会報告 平成25年度第1回大学図書館研究会	2
■ 最近の話題から	7
■ 大会報告・編集後記	8

研究会報告

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修 (群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

○平成25年度第1回

テーマ：「電子コンテンツの動向」

日時：平成25年9月12日（木）13時30分～16時30分

場所：群馬大学理工学図書館 多目的ホール

参加者：41名（大学図書館17名、公立図書館13名、高校図書館11名）

講演：「電子コンテンツの動向 本と図書館の未来を考える」

専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科 教授 植村 八潮 氏

【概要】 2010年の電子書籍ブーム以来、「電子書籍」という言葉が一般化して、今では特別の注釈なく用いられている。市場創出や利便性の向上という点からも新たな世界に期待が高まっている。では、長い間、印刷書籍が果たしてきた役割は、電子に置き換わっていくのだろうか。学術情報流通に加え、教科書など教育における役割はどうなっていくのか。環境変化の中で図書館に期待される役割とは何か。電子コンテンツの中でも電子書籍を中心に、本と図書館の未来について考えてみたい。



会場・理工学図書館



末松大学図書館協議会長



植村講師



講義風景



参加者の意見等

「参考になった」「専門的な分野の話聞いてよかった」との感想が多く概ね好評であったが、中には「難しかった」「勉強不足を感じた」など、やや高度な内容と感じた受講者もいたようです。講師については、「身近な話題と重ねて話され、わかりやすかった」「話し方を含めて面白く聞いた」との好意的な意見が多く寄せられました。内容としては、「それぞれの国における背景などを知ることによって、電子コンテンツをめぐる動向に興味深く面白と感じることができた」「ペーパーメディアではなくなるが文字は残る、というのは大変印象的だった」との感想があり、電子コンテンツに対して新しい視点をえた受講者もいたようです。講演終了後には理工学図書館の見学が行われ、ラーニングcommonsや改修後の利用状況について多くの質問が寄せられました。

群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会専門研修

電子コンテンツの動向 本と図書館の未来を考える

2013年9月12日

植村八潮

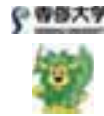
専修大学 文学部 人文・ジャーナリズム学科
(株)出版デジタル機構

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

3

植村八潮



- ・ 専修大学 文学部 人文・ジャーナリズム学科
教授 博士(コミュニケーション学)
 - － 出版学, 電子出版論, デジタルメディア研究, デジタル読書, アクセシビリティ
 - － コンテンツ生成から流通, 読書環境まで
 - － 標準化(文字コード, 外字異体字, フォーマット)
- ・ 株式会社 出版デジタル機構 取締役会長
- ・ IECTC100/TA10マネージャー(国際電気標準会議eブック標準化分科会議長)
- ・ 主要著作:『電子出版の構図:実体のない書物の行方』(印刷学会出版部, 2010年)ほか

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

2

電子書籍をめぐる通説

- ・ 日本の電子出版は欧米に比べ3～5年遅れである
- ・ 電子書籍は流通や印刷コストがないので, 印刷書籍よりも安くなる
- ・ 市場が大きくなる一番の理由は, 電子書籍の点数が少ないことである
- ・ 市場を立上げるには, 電子化を拒んでいる人気作家(東野圭吾, 村上春樹)の新作を発売すればよい
- ・ 電子書籍の販売が伸びれば, 印刷書籍の売上げは落ちていく(カニバリズムが起こる)
- ・ 近い将来, 印刷書籍と電子書籍の市場規模は逆転する

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

3

「電子書籍」とは何か？

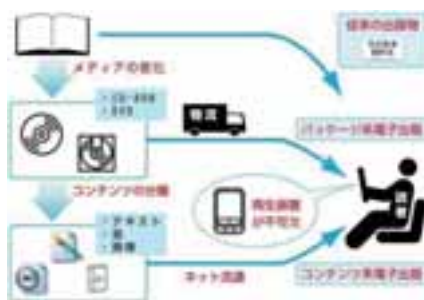
- ・ 電子書籍(出版物の電子化)
 - － 定義「既存の書籍や雑誌に代わる有償の電子的著作物(デジタルコンテンツ)で, 電子端末(ハード)上でビューワー(ソフト)により閲覧されるフォーマット化されたデータ」
- ・ 書籍＝内容(コンテンツ)＋パッケージ
- ・ 電子書籍＝[書籍(+雑誌)]のコンテンツ
- ・ 電子書籍端末＝表示装置(ビューワー＋ハード)
- ・ 電子書籍の読書:端末で電子書籍を表示
 - ・ **コンテンツとパッケージの分離が意味するところ**
 - ・ **流通チャネルの変化**

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

4

本のデジタル化と再生装置



2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

5

出版産業の国際化とIT化

- ・ 出版産業は, 言語依存し, 各国固有の社会制度, 文化に深く関わって発展
- ・ グーグルブック検索訴訟和解の衝撃(2009)
- ・ 携帯電話, スマートホン, タブレットPC, 電子書籍端末などデバイスの普及
- ・ グーグル, アマゾン, アップルなどプラットフォームの躍進
- ・ 活字離れではなく, 情報流通の変化と読書の多様化



- ・ 電子出版市場の拡大, あらたなる出版産業の育成策が求められる
- ・ 出版文化を支える新たな制度設計を官民協働(公共)で取り組む必要

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

6

日本の電子書籍市場の特徴

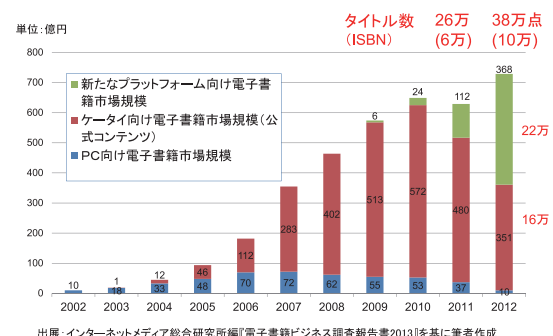
- ・ 日本型電子出版市場
 - － 電子辞書・コミック・ケータイ小説など成功事例
 - － 携帯電話向けが主流で電子書籍売上げの約9割。
 - － コンテンツの多くはコミック。急速なスマホ移行の中でケータイコミック市場が激減
 - － 2012年度 国内電子書籍市場, 729億円(15.9%増)
 - － タイトル数は推計38万点(12万点増)
 - － ISBN情報付与点数は, 10万点(4万点増)
- ・ 電子書籍端末市場への移行
 - － 2009年 米国における電子書籍端末市場の成立
 - － 2012年 紀伊國屋書店, Kobo, Kindle, BookLive(凸版系)

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

7

2012年国内電子書籍市場729億円(15.9%増)



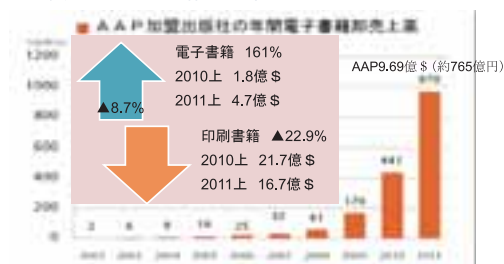
2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

8

米国電子書籍市場の拡大と問題

AAP/BISG書籍市場統計レポート「BookStats」を発行
2011年度米国電子書籍売上高20億 \$ 1580億円以上



(出所: AAP(アメリカ出版協会)のデータを基に作成)

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

C

“カニバリズム”か“イノベーション”か

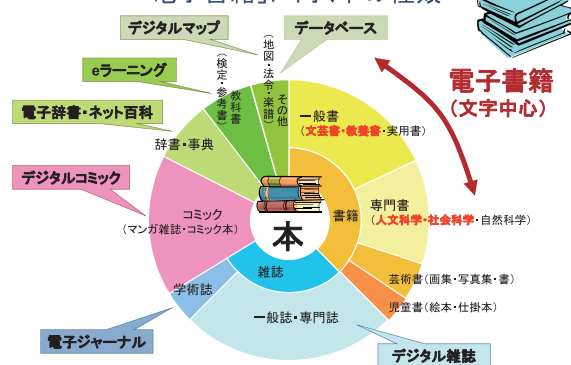
- ・ 背景
 - － 印刷技術からデジタルネットワーク技術へ
 - － 印刷物からデジタルコンテンツへ
 - － 物流から情報流通(ネットワーク)へ
- ・ カニバリズム
 - － 電子書籍が印刷出版市場を奪い、価格破壊を起こし、市場規模が小さくなる(プラットフォームの躍進と寡占)
- ・ イノベーション
 - － 電子書籍が既存のビジネスモデルを破壊するが、そのことで新たなビジネスが生まれ、新しい表現をユーザーが受け入れ、市場創出により規模拡大が起こる(self publishingの注目)
 - － E.L.ジェイムズ3部作(Fifty Shades of Grey)世界6,300万部突破

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

10

「電子書籍」に向く本の種類



2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

11

電子書籍(端末/コンテンツ)の三つの流れ

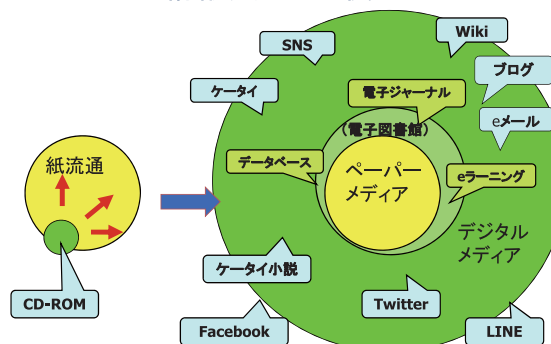


2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

12

文字情報流通の主役交代



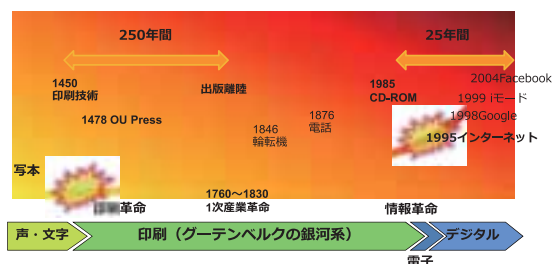
2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

13

情報量増大の社会的・技術的要因

印刷複製技術と伝達方法によって出版が変化
デジタル複製とネット流通によって劇的な変化



2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

16

新しいメディアは古いメディアを模倣する

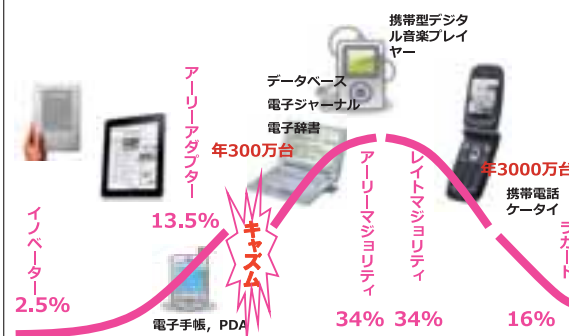
- マーシャル・マクルーハン「『進歩』の名において、われわれの官製の文化は、新しいメディアに古い仕事をするように強制する。」
- horseless carriage 〈古語〉自動車
 - when automobiles first replaced **horse-drawn** carriages they were called **horseless** carriages (自動車は、馬車に取って代わった当初、馬のいない馬車と呼ばれた)
- 新しいメディアへの理解のアプローチ
 - 音声通信、無線電話、家庭映画館／映像ラジオ、携帯電話
 - ケータイ＜携帯電話＞電話
 - 「電子＋書籍＜書籍＞」→「電子＋書籍＞書籍」

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

15

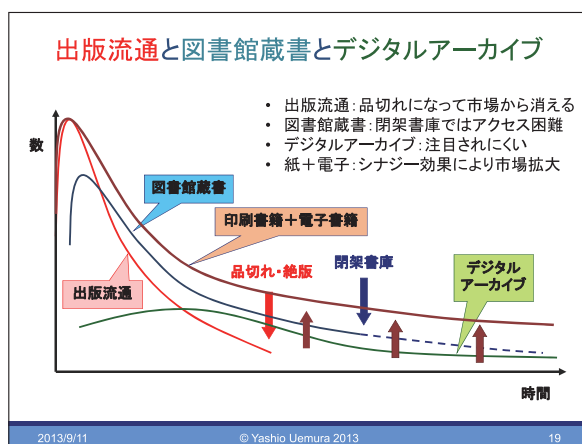
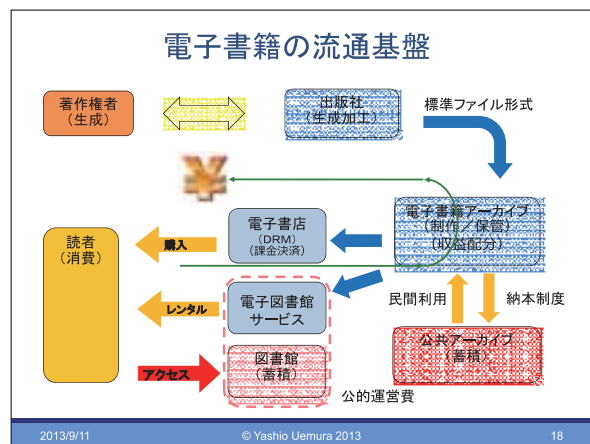
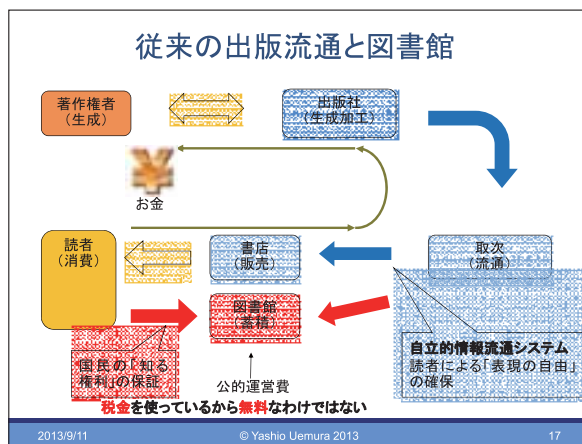
各種読書端末の普及（キヤズムを越えるか）



2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

16



- ### 電子書籍と図書館のコラボレーション
- ・ 米国では大半の公共図書館に電子書籍が導入
 - ・ 日本全国3000館以上の公共図書館のうち10館程度
 - ・ 電子書籍と図書館のコラボレーションは、双方にとって極めて効果的
 - ・ Discoverability (発見可能性)
 - － 電子書籍は、狭いディスプレイ上に展開されることから、認知度が極めて低い
 - ・ Serendipity (偶然に発見する力) としての書店や図書館
 - ・ Findability (発見) 全文検索が電子書籍の利点
 - ・ accessibility : 文字の拡大や読み上げ
- 2013/9/11 © Yashio Uemura 2013 20

- ### 図書館の電子書籍利用モデル
- 2012年8月米国図書館協会 (ALA) DCWG
- ・ 市販されているすべての電子書籍タイトルを図書館で利用できるようにする
 - ・ 図書館が購入した電子書籍を、ほかの電子書籍プラットフォームに移行できるようにするなど、無制限に貸出ができるオプションを図書館が持つようにすること
 - ・ 電子書籍を見つけやすくするために、出版社が提供するメタデータやマネジメントツールに図書館がアクセスできるようにすること
- 2013/9/11 © Yashio Uemura 2013 21

- ### 図書館の電子書籍利用モデル
- 2012年8月米国図書館協会 (ALA) DCWG
- ・ シングルユーザーモデル
 - － 印刷書籍と同様に1ライセンスで1度に1人の貸し出し
 - ・ 貸出回数の利用制限モデル
 - － 新刊発売から一定期間貸し出せないモデル等では、制限に応じた利用価格を提言
 - ・ 貸出制限モデル
 - － 出版社からの要望がある館内でのみの貸出制限やコンソーシアムや図書館相互貸借 (ILL) の制限等に対しては、図書館として電子書籍の利用を著しく損なう
 - ・ 購入 (Buy it) ボタン
 - － 米国オーバードライブ社
 - － 国会図書館蔵書検索・申込システム (NDL-OPAC) Database Linker
- 2013/9/11 © Yashio Uemura 2013 22

北米・東アジア図書館での図書・電子書籍・電子ジャーナル所蔵数 (2010年)

	図書	電子書籍 (購入タイトル)	電子ジャーナル (誌)
中国語	9,286,632	97,469	269
日本語	5,568,615	1,244	69
韓国語	1,328,615	11,703	171
それ以外 (英語など)	1,431,586	7,864	31
合計	17,615,035	118,280	540

出展: 江上敏哲『本棚の中のニッポンー海外の日本図書館と日本研究』笠間書院, 2012

2013/9/11 © Yashio Uemura 2013 24

- ### “電子出版元年”以降の出版関連行政 (1)
- ・ 総務省、経済産業省、文部科学省「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」平成22 (2010) 年3～6月
 - － 出版物の収集・保存や円滑な利活用のあり方、出版物へのアクセス環境の整備
 - ① 表現の多様性の確保
 - ② 知のインフラの整備
 - ③ 世界に負けないビジネスモデルの構築
 - ・ 総務省「新ICT利活用サービス創出支援事業 (電子出版環境整備事業)」平成23年度
 - － 電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト
 - － 次世代書誌情報の共通化に向けた環境整備
 - － 次世代電子出版コンテンツID 推進プロジェクト
 - － アクセシビリティを考慮した電子出版サービスの実現
 - － EPUB 日本語拡張仕様策定 他5事業
- 2013/9/11 © Yashio Uemura 2013 24

“電子出版元年”以降の出版関連行政(2)

- 文化庁「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議」
 - 平成22年11月設置 報告書公表 平成24年1月
 - ① デジタル・ネットワーク社会における図書館と公共サービスの在り方
 - ② 出版物の権利処理の円滑化
 - ③ 出版者への権利付与
- 経済産業省「書籍等デジタル化推進事業」平成23年度
 - 個々の出版物の特性に応じた契約を円滑化する取組の構築
 - 中間・交換フォーマットの出版社・印刷会への普及促進
 - 外字・異体字が容易に利用できる環境の整備
 - 書店を通じた電子出版と紙の出版物のシナジー効果の発揮
- 電子書籍の流通環境が未熟であり、戦略的な基盤づくりが求められている
 - 小資本の出版社でも参入できる環境整備
 - 電子書籍制作のノウハウの共有

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

25

株式会社 出版デジタル機構(パブリッジ)

- 出版デジタル機構は、電子出版ビジネスのためのインフラストラクチャーの提供を通じて、あらゆる本が電子書籍として読める読書環境を整備。電子出版に関わる様々なビジネスモデルを支援して、誰もが電子出版による自由な言論表現活動に参加できる社会の実現を目指します。
- 多くの出版社による提案により設立(2012.4)。直ちに政府系ファンド(150億円)や大手印刷会社の増資
- パブリッジが架け橋となることで
 - あらゆる端末、あらゆる書店、あらゆる出版社を結ぶ。全ての著者、読者が参加できる場を作りたい



2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

26

経済産業省「コンテンツ緊急電子化事業」 平成23年度補正予算

- 事業趣旨
 - 電子書籍市場の拡大と東北・東大震災被災地域の雇用促進に向けて、書籍の電子化作業に要する製作費用を国が補助する
 - 補助率は費用の50%、補助金額約10億円(事業総額:約20億円)
- 補助金達成率(4月15日速報) 99.7% 9億5063万円
- 参加出版社数は460社
- 電子書籍制作タイトル数 6万4833点
- フォーマット:あらゆる電子書店の配信に対応
 - フィックス型(校正不要で制作費が安く、早い)
 - TIFF 600dpiで画像化(OCR対応可)、JPEG圧縮での課題
 - 表・図版入り書籍(専門書)の電子化に向く。一方、図版の文字が読みにくい
 - リフロー型(DTPデータと文字入力から制作)
 - .book、EPUBへの対応

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

27

TPPとオーファンワークス

- オーファンワークス(孤児著作物)
 - 国会図書館「明治期図書7万3千人の著者の71%」
 - 英国図書館「所蔵作品1億5千万件の40%(推計)」
 - 米国大学共同電子図書館「学術資料500万点の50%(推計)」
- EU:2012年「孤児著作物に関する指令」
 - 一定の調査(EU全体で認定)
 - 非営利のアーカイブに限り域内で利用が可能
 - 課金も可(使途は限定)
 - 著作権者はオプトアウト可
- 米国:2008年「孤児作品法案」の検討再開
- 日本:文化庁長官の裁定制度
 - 求められる「相当な努力」

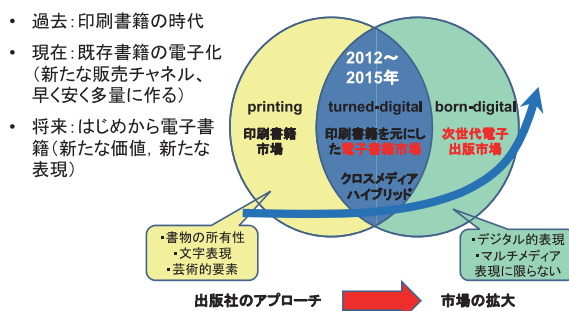
福井健策2013.5.17講演資料+朝日新聞2013年5月21日付朝刊より

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

28

書籍と電子書籍の将来市場



2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

29

知の構造体の変容

- 過去:知と情報は紙／印刷によって流通・保存
- 現在:ネット上に膨大なデジタル情報が創出
- 多くのデジタル情報は信頼性が担保されていない
 - 知識の構造化体系化 から 情報検索データ集合 へ
 - 作家性 から 集合知 へ
 - 責任の明確(実名) から 曖昧性(匿名性) へ
 - 信頼性/権威性 の喪失
- 出版者は知のインキュベーターとしての機能を果たす

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

30

これからの出版

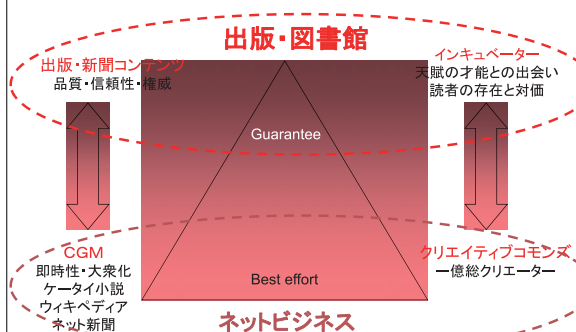
- 出版社が書籍とデジタル書籍を同時に刊行する
- ハイブリッド(紙+デジタル)販売／購読が普及する
- 相対的に紙のシェアは低下する
- ディスプレイ上で書籍(図書)、雑誌(逐次刊行物)、新聞(逐次刊行物)が再編され、区別がなくなる
- 「出版とは印刷物を発行すること」「読書とは紙の本を読むこと」は、いずれも過去の概念となる
- 出版物のデジタルアーカイブ・電子図書館は民間によるデータサービスとして普及する
- 民間事業におけるサービスの中止、倒産・買収による喪失の危険は今後も続く

2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

31

コンテンツと「信頼性」



2013/9/11

© Yashio Uemura 2013

32

最近の話題から

電子書籍 最近の動向

電子書籍とは「図書や雑誌、新聞などの出版物をデジタル化し、専用の端末やタブレット端末、パソコン等で閲覧できるようにした電子資料」のことを言う¹。紙の本をスキャナで電子化したものと、当初からデジタル形態で作成されたボーンデジタル資料とがある。2010年はアップルのiPadやソニーのReader等が発売されたことにより、「電子書籍元年」と呼ばれた²。平成24（2012）年度の電子書籍端末の出荷台数は、米アマゾン・ドット・コム「Kindle」が18万台、楽天「Kobo」が15.5万台、ソニーの「Reader」が12万台などとなっている³。電子書籍の端末別利用度は、PCを100とした場合、フィーチャーフォン（いわゆるガラケー）が52.7、スマートフォンが130.0であるのに対し、タブレット端末が238.7となっており、タブレット端末の普及が電子書籍利用と密接な関係にあることが裏付けられている⁴。国内では、2010年にEBPAJ日本電子書籍出版社協会が設立され、電子書籍の共通規格づくりが進められている⁵。2012年度の市場規模は729億円で、2017年度には2,390億円程度の規模にまで拡大すると予測されている⁶。

大学図書館向けには、eBook LibraryやNetLibrary、SpringerLink等、学術書籍に特化した電子書籍サービスがある。電子書籍は、紙の本と異なり、供給ルートと利用システムは、個人向けと図書館向けとは別であり、現状では、個人向けの商品が図書館に提供されることはなく、逆に、図書館向けの商品が個人に提供されることもない。大学図書館向け電子書籍は既刊の紙の本を電子化したものが多く新刊の供給が少ないため、個人向けに販売されている新刊の電子書籍の利用を学生や教員等から求められても提供することができない、などの課題がある⁷。



¹ 山本順一編. 新しい図書館情報学, 有斐閣, 2013, p.56

² 同上p.93

³ 産経新聞 2013年7月3日 朝刊 10面

⁴ 総務省. “平成24年版 情報通信白書”. 総務省.

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc122310.html> (参照2014-02-12)

⁵ 山本順一編. 新しい図書館情報学, 有斐閣, 2013, p.93

⁶ インプレスビジネスメディア. “【電子書籍ビジネス調査報告書2013発行】2012年度の新プラットフォーム向け電子書籍市場規模は368億円でケータイ向けを逆転”. インプレスビジネスメディア.

<http://www.impressbm.co.jp/release/2013/06/27> (参照2014-02-27)

⁷ 国立大学図書館協会 学術情報委員会 学術情報流通検討小委員会. “平成24年度調査報告

その1 大学図書館における電子書籍のサービスに向けてー現状と課題ー”.

<http://www.janul.jp/j/projects/si/gkjhokoku201306a.pdf> (参照2014-02-12)

[図表] 総務省情報通信国際戦略局情報通信経済室. “情報通信産業・サービスの動向・国際比較に関する調査研究 報告書 2012年3月”. 総務省, p.99,

http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/linkdata/h24_05_hokoku.pdf (参照2014-02-27)

大会報告

第11回群馬県図書館大会

未来につなげる図書館 ～これからの図書館の方向性を考える～

【基調講演】「本に恋して」横山秀夫氏（玉村町文化センター大ホール）

【第1分科会】電子書籍・デジタルライブラリーの現状とこれから（大ホール）

事例報告①「群馬県立図書館デジタルライブラリーの立ち上げについて」

橋爪文夫（群馬県立図書館 地域協力係長）

事例報告②「電子書籍と図書館の取り組み～高根沢町図書館の導入事例～」

矢野誠一（高根沢町図書館長）

事例報告③「電子書籍サービス導入から現在までの取り組みについて」

中田 宏（千代田区立千代田図書館 サービス部サービス管理チームリーダー）

報 告「明和町立図書館の電子書籍を見学して」

【第2分科会】児童・青少年に向けた新たな情報発信（小ホール）

講 義「公共図書館員のための『インターネットから使える国際子ども図書館』」

橋詰秋子（国際子ども図書館 児童サービス課企画推進係長）

事例報告①「東京都立図書館におけるTwitter／Facebookの取り組みについて」

曾根 綾（東京都立中央図書館 企画経営担当係長）

事例報告②「学生への情報提供サービスの一環として－Twitterとブクログー」

柘植久美子（群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館 学術情報管理係）

【第3分科会】利用者の潜在的な要求を刺激する（視聴覚室）

事例報告①「魅力ある案内による日常としての読書推進～その子のための1冊をさがす旅～」

小柳聡美（高崎市立吉井中央中学校 学校図書館指導員）

事例報告②「高教研図書館部会司書研修会〔利用者教育研究部会〕の取り組み」

宮崎好久（群馬県立渋川高等学校 司書専門員）

事例報告③「文化祭におけるビブリオバトルの実践」柏木彰子（群馬県立富岡高校 司書専門員）

事例報告④「利用者が望む施設を創る－理工学図書館改修にあたって－」

多胡和泉（群馬大学総合情報メディアセンター理工学図書館 理工学情報係長）



記念講演



第1分科会



第2分科会



第3分科会

編集後記

2月14日から15日にかけての記録的な大雪では、開館に影響が出た図書館も多かったのではないのでしょうか。流通が寸断され店頭から商品が消える中、居ながらにしてダウンロード購入できる電子書籍のメリットが強く感じられた数日間でした。9月の研究会テーマでもあった図書館と電子コンテンツとの関係が、発展的な方向に進むことを願うばかりです。